

日本性科学会 ニュース

◆ 2025 年研修会・学術集会・研究会 予告 ◆

第 18 回 日本性科学会近畿地区研修会 (オンライン開催)

日 時：2025 年 2 月 2 日 (日) 10:00 ~ 13:00

テーマ：性に関する活動から学ぶ

参加費：会員 3,300 円 / 非会員 5,500 円 / 学生 1,100 円

単 位：日本性科学会 資格認定更新単位 5 単位 (※有資格者が対象)

申込み：「学会バンク」からお申し込みください。右の QR コードからアクセスできます。

プログラム：

10:00 開会式 日本性科学会理事長 針間 克己

10:05 ~ 10:20 本研修会のねらい 織田 裕行

10:20 ~ 11:50 性を語る場をつくる ~ NPO と学生サークルの取り組み (仮)

NPO フラット、きょうとイロ 真鼻 弘美

「響け！ユース保健室」(仮) NPO フラット

「立命館大学 LGBTQ + 活動団体 rall. の活動紹介」(仮) 立命館大学 LGBTQ + 活動団体 rall.

「同志社大学 Gender Garden の活動紹介」(仮) 同志社大学 Gender Garden

12:00 ~ 12:50 見えない当事者を支援したい ~ 「『ジュエルっ子物語』絵本原画展」~ 作家 濱田 アキ

13:00 閉会式 日本性科学会理事 研修担当 織田 裕行



<https://gkb.jp/visitor/seminar/289>

第 54 回セックス・カウンセリング研修会

日 時：2025 年 6 月 1 日 (日)

※テーマ・会場は未定です。決まり次第 HP に掲載いたします。

第 44 回日本性科学会学術集会

大会長：金子 法子 (針間産婦人科 院長)

テーマ：多様な性と生を謳歌する

日 時：2025 年 10 月 5 日 (日) ※ 10 月 4 日 (土) 市民公開講座

会 場：海峡メッセ下関 9 階 海峡ホール (山口県下関市豊前田町 3-3-1)

HP： <https://orbit-cs.net/jsss44/>

症例研究会

※詳細は 2 ページをご参照ください。

第 27 回 性の健康世界学会 (27th Congress of the World Association for Sexual Health)

※第 17 回アジア・オセアニア性科学学会 (AOFS)、オーストラリア性科学者協会 (SAS) の第 6 回性科学実践シンポジウム (SIPS) と共催

会 期：2025 年 6 月 16 日 (月) ~ 19 日 (木)

テーマ：Advancing Sexual Health, Rights, Justice and Pleasure. EVERYONE - EVERYWHERE - EVERY TIME.

会 場：オーストラリア・ブリスベン Brisbane Convention & Exhibition Centre (BCEC)

HP： <https://www.was2025.org/>

発行人 針間克己

発 行 令和 6 年 (2024 年) 12 月

D T P 編集工房一社

一般社団法人 日本性科学会

〒 113-0033 東京都文京区本郷 3-2-3 森島ビル 4 階

TEL・FAX : 03-3868-3853 E-mail : office@sexology.jp URL : <https://sexology.jp>

日本性科学会「症例研究会」について

日本性科学会理事・症例研究会担当 山中 京子

日本性科学会では学会員の研究および臨床・実践の研鑽の場として複数の研修や研究会を継続的に実施していますが、その一つが症例研究会です。本研究会は2か月に1回奇数月の最終週の水曜日あるいは木曜日（隔月で変更）に原則18:30～20:30でオンライン開催しています。本研究会の目的は、①臨床・実践活動としてセックスセラピーやセックスカウンセリングを実施している会員のセラピーやカウンセリングの力量向上を図ること、②これからセックスセラピーやセックスカウンセリングを実施していきたい会員にその具体的な考え方や方法などについて学べる機会を提供することです。

この目的を踏まえ、また実際の症例を発表するという観点から、参加資格として、①会員であること、②守秘義務のある何らかの対人支援の専門職であることあるいはその養成課程在学中で何らかの倫理教育（個人情報保護を含む）を修了していることを定めています。

本研究会では会員から実際に実施したセックスセラピーやセックスカウンセリングの1症例を個人情報を保護した形で発表していただきます。発表者の専門職種は問いません。その症例に関するアセスメントや具体的関わりについて経験豊富な指定コメンテーターからコメントをいただきます。さらに、参加者全員でアセスメントや具体的関わりについて質問したり、意見を交換したりして、この症例の検討を深めます。

今年度の開催概要を紹介します。

第1回7/25（木）症例発表者：産婦人科医
症例テーマ：「性交渉をしてみたい側と子供だけが欲しい夫婦の症例」

第2回9/25（水）症例発表者：産婦人科医
症例テーマ：「夫との性行為ではオルガズムがえられないことに夫が満足できない1例」

第3回11/28（木）症例発表者：看護師
症例テーマ：「行動療法を導入するも、セラピーが遷延している心因性ED、膣内射精障害を抱えたセックスレスカップルの1例」

なお、今年度は金子和子先生（臨床心理士）、渡辺景子先生（臨床心理士）、大川玲子先生（産婦人科医）、木村将貴先生（泌尿器科医）に、指定コメンテーターをお引き受けいただきました。

本研究会は、発表者が安心、安全な環境で発表できぬ機会が多くある研究会を目指して運営しています。本研究会は、著者の山中の他、木村将貴先生（泌尿器科医）と村田佳菜子先生（産婦人科医）の3人で運営を担当しています。本年度はこれから1月29日（水）と3月27日（木）の開催を予定しています。症例の発表を希望する方あるいは参加を希望する方はぜひ学会事務局までお申し出ください。

書評

「LGBTQ+の健康レポート」

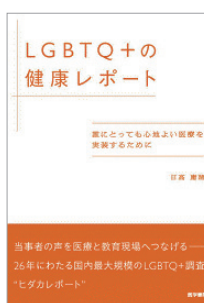
日高康晴（著）医学書院（2024年）

春日井市民病院泌尿器科 奥村 敬子

LGBTQ+の「Q」は何でしょう？「Queer（クイア）：LGBTにあてはまらない方」です。この本はLGBTQ+初心者でも理解でき、具体的にどうしたら良いのかも記載されています。当事者の声や、ゲイであるために憎悪犯罪（ヘイトクライム）で命を落とした悲しい事例からは、身近な人のことだと考えてほしい、と言われていた気がします。LGBTQ+のメンタルヘルスを客観的に測定・スクリーニングした結果は極めてネガティブなデータの連続であること、カミングアウトの人数が増えるに従って自殺未遂リスクが高まるというショッキングなデータもありました。立ち入った質問項目満載の「恒例の超長一冊、質問項目の

アンケート」に1999年調査から累積すれば11万人を超える当事者が回答しているという事実は驚くべきことであり、著者はそれを「研究参加者から26年に渡って変わらず寄せられるその声は、調査データとしてまとめることで差別や誤解を受けている自分たちの状況を改善するような社会的働き掛けをしてほしい、平等が認められていない社会に対してデータを通じて訴えをしてほしい、といった切実な心情である。」と述べています。

巻末資料には2016年2019年2022年の調査データがあり、著者は「国や地方自治体の施策に反映されることで初めて当事者の役に立つ」と考え、載せているのでしょう。本を手にとった時は厚いと思いましたが、著者の熱を感じる、コンパクトにまとめられた1冊で、この本が多くの人に届くことを期待します。



第43回日本性科学会学術集会を開催して

宮の森レディースクリニック 池田 詩子

日本性科学会（JSSS）に私が入会したのは2019年の春ごろだったと記憶します。入会数年前から学会の存在は知っていたのですが、入会に推薦者が必要なことがハードルとなり、斗南病院で非常勤勤務されていた元札幌医大産婦人科准教授の遠藤俊明先生が学会員であることが判明し入会に至りました。女性の産婦人科医として臨床をしていると、性の問題を患者様から相談されることは少なくなく、日本の産婦人科の成書には「性」について詳細に書かれているものが少なく、私を含めて多くの産婦人科医が、大なり小なりこの分野を勉強したいと考えていると思います。最初に学術集会に参加したのは2019年の第39回鹿児島大会で沢山の刺激を受けました（この時の大会長の内田洋介先生には、今回の学会開催に関連して様々な実務的なご助言をいただき感謝しかありません）。私自身は、『婦人科に受診する女性の性の現状と悩みについてのアンケート調査』という一般演題を発表し大川玲子先生から温かいコメントを頂きました。また当時対応に苦慮していた持続性性喚起症候群（PGAD）の症例に関して、現地で早乙女智子先生にご相談できたのは大きな収穫でした。その後、コロナ禍で学会の現地開催がなくなり、2021年にオンライン開催された第40回学術集会で一般演題『月経困難症に対するホルモン治療が女性の気分障害や性機能障害に及ぼす影響についてのアンケート調査』を発表し、その直後、2021年11月に2023年の学術集会の会長の打診を受けました。会員になって3年足らずで学会参加も2回しかしていない状況でした。当初は遠藤俊明先生と私との連名での打診で、遠藤先生が会長で私が補佐でと思っていましたが、遠藤先生から私に会長をするように強く勧められ、私は2022年に開業を控えていたので「2024年の開催なら」ということで会長を拝命いたしました。

学会のテーマに関しては、性科学会初心者の私が、北海道から何か1つでも新しいメッセージを伝えられないかと思案し、『多様性とギャップを考える』にいたしました。2年の準備期間を経て、道内で活動されている当事者に声をかけ、講師としてL:2、G:2、T:2（FTM1MTF1）、アライの医療者:3名と様々な立場からの思いを届けられるよう留意いたしました。また、JSSSの強みである学際色を活かし、今回の学会はあえて医療色は控えめにし、

「法」や「行政」の立場からも講演いただきました。

第43回JSSSは第23回JFSとの4年ぶりの合同開催で、総参加者は194名、そのうち学会員や講師ではない一般参加者は62名でした。また、本学術集会は「さっぽろレインボープライド」に日程を合わせて開催し、パレード参加者は学会参加費を優遇したこともあり、パレード中で9名の参加がありました。一般演題は予想をはるかに超えて29題と過去最多の応募があり、時間の都合で2会場を使っただけの発表となったため、嬉しい悲鳴ではありましたが、すべての一般演題をお聞きいただくことができなかったことは私も残念です。

性に対する知識や考えは人それぞれで、受け取ったメッセージも人それぞれだったと思います。学会終了後に色々な感想をいただき、私の学びにも繋がりました。

そんな中で、私の学びを1つ。

ミニ特別講演で、トランス男性の方にパートナーの妊娠に至るまでの様々な葛藤があったことを講演いただきました。その質疑応答で針間理事長から「今は手術をしなくても男性に戸籍を変えることができる」というコメントをいただきました。私自身はGI学会などを通じてそういう事例が増えていることを知っていましたが、性別適合手術を受けていないがために性別を変更できない状態だったトランス当事者が、最高裁の判決のみで法律が変わることなく性別変更が可能になったことを知らないことを改めて認識させられる場面となりました。その後、この当事者の方は性別変更の手続きに入っています。当院の外來で、同様のケースの方に性別変更が可能になったことをお伝えすると、ほとんどの方が「知らなかった」とおっしゃっていました。日々更新される医療と制度の適時適切なアップデートと、患者様との情報共有は大変重要だと感じさせられる一幕でした。

「多様性」が政治利用され社会の対立構造を作ろうとする動きもありますが、対立ではなく、「違い」を認め合い、楽しみ、補い合える価値観の醸成に、今回の学会が少しでもお役に立てれば幸いです。

最後に、本学術集会開催をサポートいただきました事務局の方、遠藤先生、内田先生、またご参加いただきました会員の方々に、心よりお礼申し上げます。

2024年資格認定結果

資格認定委員会委員長 大川 玲子

日本性科学会「セックス・セラピスト」「セックス・カウンセラー」資格認定規定に基づき、2024年度の新規資格認定および資格更新の手続きが行われました。厳正なる資格審査の結果、以下のように新規セックス・カウンセラー1名、更新セックス・カウンセラー1名、更新セックス・セラピスト5名が認定されました。

【新規認定】

セックス・カウンセラー 夏目祭子

セックス・セラピスト 該当なし

【更新認定】

セックス・カウンセラー 奥村敬子

セックス・セラピスト 奥村敬子 岩佐厚 石丸径一郎 丹羽咲江 内田洋介

来年度も新規資格認定および更新認定（2020年資格取得者が該当）の手続きが行われます。申請を希望される方は、資格認定規定ならびに資格更新規定をご熟読の上、ご準備をお願いいたします。特に、学術集会・研修会などにご出席の際の受講証・参加証は必ず保管してください。申請の詳細は2025年6月発行のニュースに掲載されます。

新規資格認定および更新規定はこちらのページの末尾からご確認ください。

https://sexology.jp/license_instruction/

『日本性科学会雑誌』2025年度号への投稿締切について

一般社団法人日本性科学会は、学会誌『日本性科学会雑誌』の発行事業を行っており、性科学分野の様々な論文を掲載しています。

現在、下記の要領で2025年度1号（2025年7月発行予定）への投稿を受け付けています。投稿規定をご確認の上、ご投稿ください。ご投稿後査読を経て編集委員会で掲載の可否を判断いたします。

【執筆要領】

掲載誌：日本性科学会雑誌 VOL43 No.1 July, 2025

字数：12,000字以内

締切日：2025年2月28日（金）

原稿送付先：日本性科学会事務局（office@sexology.jp）

投稿規定：<https://sexology.jp/instructions/>

理事改選について

一般社団法人日本性科学会定款第31条の通り、本会の理事の任期は1期2年となります。このたび2025年度・2026年度の理事の選挙を行います。選挙の実施にあたり、下記をご確認ください。

【年会費のお支払い】

2025年1月31日までに2024年度分までの年会費の納入をお願いします。未納年会費のある方には選挙権ならびに被選挙権の付与ができかねます（定款の定めにより、連続2年の滞納で強制退会となりますので併せてお気をつけください）。

【Eメールアドレスの提出】

選挙は、学会バンク（オンラインシステム）を使用して行います。このシステムの使用にはEメールアドレスが必要となりますので、速やかな届出をお願いいたします。事務局宛に、届出予定のメールアドレスからご連絡ください。

【選挙管理委員の公募】

選挙の実施にあたり、選挙管理委員を3～5名程度公募いたします。理事規程に基づいて選挙管理委員会を組織し理事選挙を執行する役目です。日本性科学会事務局が執行を補佐いたします。事務局宛に立候補のご連絡をお願いいたします。